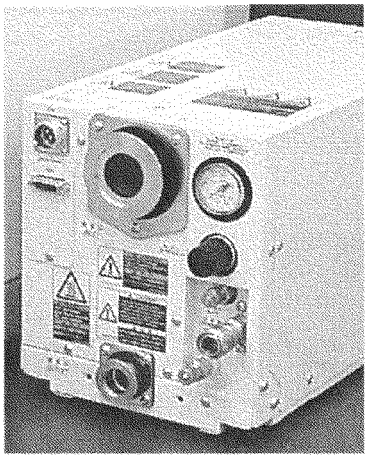
日本経済新聞　2005年（平成17年）6月7日（火曜日）

真空ポンプ 省電力型強化

曲面加工機導入 生産性3割向上

樫山工業

長野県佐久市に生産拠点を持つ産業機器メーカーの樫山工業（東京・杉並、樫山宏社長）は省電力の真空ポンプ製造設備を強化する。国内大手メーカーの環境意識が高まり省電力型の需要が高まっていることに対応する。約八千万円を投じて複雑な曲面加工ができる複合加工機を導入、製造効率が三割程度高まり納期短縮などにつなげる。



省電力の真空ポンプが国内メーカーの人気を集める

通常の旋盤では対応できない曲面加工ができる複合加工機を二月に一台購入。七月にさらに一台を追加する。数種類の加工機を使っていた省電力ポンプに使う複雑な形状をしたローター（回転体）加工も、新たな機械は一台で対応できる。

樫山工業は半導体や液晶パネルの製造工程で膜を形成する際に必要な真空状態を作り出すためのポンプを製造している。ＩＴ（情報技術）関連需要の落ち込みから、今年度の販売台数は前年度比五％減の三千九百台を見込む。「中国での需要が半減する」（樫山社長）のが主因だ。

ただ国内では省電力、省スペースでの設備投資を急ぐメーカーからの注文が堅調に推移する見通し。省電力のポンプが全販売台数に占める割合は六〇％から七五％に高まる。特に真空能力が比較的低い搬送室などで使う負荷の低い機種の需要が増えるとみる。従来品より床面積は六割少なく半分の電力で動く「ＭＵ１００」（排気速度毎分千六百六十リットル）の販売は六割増の八百台を見込む。

樫山工業は二〇〇六年三月期に、売上高（単体）百十五億円を見込む。降雪機や製氷機の製造も手がけているが、売上高の九割以上が真空ポンプ。